

2月22日(火) 教育実践研究会

研究主題「児童生徒が地域社会で主体的に活動するための支援はどうあるべきか」  
～地域生活につながる授業づくり～ (3年次 最終年度)

<講師>

筑波大学 大学院	藤原 義博 先生
香川大学 教育学部	武藏 博文 先生
上越教育大学 大学院学校教育研究科	村中 智彦 先生

<助言者>

富山県教育委員会 県立学校課	新夕 佳子 先生
富山県教育委員会 県立学校課	山川 俊幸 先生
富山県総合教育センター 教育相談部	喜多 真波 先生
富山大学 人間発達科学部	小林 真 先生
富山大学 人間発達科学部	川崎 聡大 先生
富山大学 人間発達科学部	水内 豊和 先生
富山大学 人間発達科学部	阿部美穂子 先生

最終年度として、この3年間の研究の成果を発表しました。当日は、県教育委員会、県総合教育センター、教育事務所等の来賓の先生方をはじめ、県内外を問わず、北海道から九州に至るまで全国から180名にも及び多数の先生方を迎え、協議を深めることができました。

公開授業として日常生活の指導「チャンレジタイム・朝の会」、指定授業として全学部「国語科」、「算数科・数学科」の授業を全学部で行いました。「より意欲的に取り組む中で、考え、判断し、表現しながら、より豊かな知識・技能を学び合う」姿を育み、「参加」を深めることを目指して取り組んできた授業を公開しました。

お昼休みには、研究部から「授業づくりのコツ(試案)」について話題提供、午後からの「授業者と語る会」(学部別)においては、学部ごとにこれまでの「参加」を深める授業づくりについて発表を行った後、フリートークという形で参加者と意見交流を行いました。

最後のシンポジウムにおいては、藤原先生、武藏先生から「授業づくり、明日への展望3」というテーマで、これまでの本校での教科別の指導における取組を振り返りながら、これからの授業づくりの在り方についてご提言いただきました。

アンケートから、参加された方々の声をご紹介します。

- ・「教室に入っただけで、様々なことを学ぶことができました。」
- ・「個別の活動になりがちな教科指導で、友達同士のかかわり合いの多い授業風景が新鮮でした。座らずに(机上学習だけでなく)動きながらの活動がよかったです。」
- ・「児童生徒で進行しながら、互いに学び合い、参加している姿に驚きを隠せませんでした。」
- ・「児童生徒が様々な支援ツールを巧みに使いこなして自ら動きながら、課題に集中して取り組み、さらに評価し合う姿にびっくりしました。」

